



# 夜ごとの番

6月7日

Sudden Fiction Project

高階 經啓  
hirotakashina

## 6月7日のおはなし「夜ごとの番」

---

火の用心の拍子木の音が遠ざかるともう何も聞こえない。真っ暗な中で目が冴えて布団にくるまりながらぎろぎろと上を睨んでいるが特に意味はない。天井が見えるわけでなくただもう真っ暗なだけで、それでも目をぎろぎろ動かすと目の錯覚なのか何やら色のついたものがちらちら見える気がするから面白い。相変わらず眠れず、他にすることもないのでそんな具合にぎろぎろと目を動かしている。

こんなことをしていてもいい考えなど浮かぶわけもないが、視界にぼわりぼわりと浮かぶ影を見ていると思ってもよらないアイデアが得られるような気もする。このままではいけない。年が明ければ早々に大きなチャンスがやって来る。それまでに何とか形を付けないといけないが、もちろん話はそんなに簡単ではない。何かうまい方法はないか。衆目を集め脚光を浴びるようないい案はないものか。そんな都合のいい話はないか。

「何？ 眠れないの？」

女が声をかけて来る。清水は横を向く。すぐそこに女の顔があり、布団の中には裸の女の熱い肌がある。右手は女の左手とからめたままになっている。清水は混乱する。いつも通り、一人で部屋にいる気になっていたが違った。いま清水の顔に生暖かい息を吹きかけているのは高校時代のクラスメートの藤谷だ。

だんだんに思い出す。前の晩、高校の同窓会があった。その後、藤谷とそういうことになったらしい。なったらしい、というのは何も思い出せないからだ。思い出せないしそんなことが起こるとは信じられない気がする。藤谷がいまも藤谷姓だったかどうか思い出せないが確か家庭があるような話をしていたし、清水は自分が何をどうすれば女とそういうことになるのか見当もつかない。そこで気がつく。ああこれは夢を見ているんだと。

「どうしたの？ 気分でも悪い？」

「大丈夫。ちょっとぼうっとしていた」

「夢でも見てた？」

夢を見ているのはいまだよ、とは口に出さず、からめた手の指を少し強く握る。藤谷も握り返して来るので左手を伸ばし女の身体を引き寄せる。身を丸めるようにして女は応じて来る。なんてリアルな夢なんだろうと思いがらしばらくその感触を味わう。ペニスが硬くなるのを感じながら夢の中でもちゃんとセックスできるのだろうか考える。

「いけないわ」

「いけない？」

「次は鈴木君の番だから」

鈴木君の番？ と思った瞬間に肩を叩かれ、すっかり服を脱いだ鈴木が、さあ出て行けと言う仕草をしている。その向こうにも全裸半裸の同級生の男たちが列をなしている。

気がつけば布団から追い出され、部屋からも追い立てられ、背後で勢いよくピシヤリと襖が閉まると真っ暗で何も見えない。夢の中だから仕方ないと思いつつ、藤谷を抱きそこねたことが残念でもう一度部屋に戻ろうとすると、肩を強くつかまれ耳元で「早くこれを着ろ」という低くささやく声がある。ためらっていると「どうした？ 知りたいんだろう？」と言われる。言われるとそうだった、それを知りたくておれたちは藤谷のところに来たんだった、と思い出す。

渡された服は自分の服ではなく、闇の中の人物に手伝われながら身につけて最後に拍子木を渡されて、ああやっぱりと思っているうちに、寒い夜空の元に出されてしまう。影の男は相変わらず建物の闇の中で姿を見せないまま告げる。「しっかり拍子木を叩いて火の用心の夜番を努めてれば、向こうで見つけてくれるから」と。でもその時にはもう清水は夢中で歩き始める。できるだけいい声で「火の用心！」と声を張り上げ、チョンチョーンといい音をさせて。なぜならどうしても知りたいからだ。4ヶ月で有名になる方法を知りたいからだ。

(「4ヶ月で有名になる方法」 ordered by atohchie-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

## 新作スタート。お題募集中。

---

2011年10月1日。

Sudden Fiction Projectの新作発表が始まりました。

1日1篇ペースをめざしていますが、これはどうなるかわかりません。  
毎日、その日のお題を見て、いきなり書き始めていきなり書き終わる。  
即興的に書くSudden Fictionをこれからお楽しみください。

お題募集中です。

「[急募！お題](#)」のコメント欄で受け付けています。  
どなたでも気軽にご注文ください。初めての人、大歓迎です。

(お題の管理上、TwitterやFacebookでは見逃しがちなので、  
どうか上記コメント欄をご利用ください)

それではこれからしばらく新作のシーズンをお楽しみください。

※発表済みの作品をご覧になりたい方は  
「[SFPインデックス \(ただいま作成中\)](#)」  
をご活用ください。

## 夜ごとの番

<http://p.booklog.jp/book/39869>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/39869>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/39869>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社paperboy&co.